

# 会員のば

## 我々の責務

札幌市医師会  
札幌心臓血管クリニック

八戸 大輔

若いと思っていた自分も今年の4月で医師16年目を迎えた。札幌東徳洲会病院での初期研修では年間2,000人もの患者さんを診させていただき、後期研修では、福岡徳洲会病院・鹿児島の大隅鹿屋病院で総合内科・透析の研修を受け、内科の基礎を勉強してきた。その後、札幌東徳洲会病院の循環器内科、湘南鎌倉総合病院を経て札幌心臓血管クリニックで、膨大な数のカテーテル治療をこなしている。途中、韓国の国立全南大学校、イタリアのSan Raffaele Scientific Institute/Columbus Hospitalに留学をし、カテーテル治療に加えて臨床研究を学び論文も書いてきた。

多くの治療、留学を通じて、医療が日進月歩、常に変化し続けていることを肌で感じているが、我々が今やっている治療、これから患者さんに対してやろうと思っていること…これが絶対正しいかは、誰も分からない。いまやっている治療が、1年後には間違っている可能性すらある。だからこそ、我々は、自分たちのやったことを必ずレビューをして、科学的に修正をしていく“省察”を繰り返す義務がある。特にハイボリュームセンターと言われる多くの治療をしている病院は、その責務を果たさねばならないと考えている。そのためには、本当に正しい科学の手法を学んでおかねばならない。いろいろな病院に行って勉強をしたり、留学をしてその手法を学んでおかねばならない。

留学すること、博士号を取ること、論文を書くこと、そんなことが大事なわけではない。我々が、医師として、医師であるために、医師らしく生きる。そのためにずっとたゆまなく努力を続けること、それが大事なのである。

そんなことを一緒に考えていける仲間を探している。

## かかりつけ医の愚痴

羊蹄医師会  
喜茂別町立クリニック

藤原 昌平

「お陰様で元気になりました」。こんな言葉を貰えることが医師としての大きなやりがいの一つだと感じている。町内唯一の医療機関として初期救急も担っている当院では頻度は多くないが、それなりに救急患者がやってくる。適切な初期対応を行い後方医療機関に紹介し、帰ってきた時に上記のような言葉を貰うのはやっぱり嬉しい。

とは言っても、ほとんどの診療内容は慢性疾患の管理や予防医療であり、むしろこちらがかかりつけ医としての重要な役割だと肝に命じている。でもこれが報われない…。なにしろ予防医療の結果が出るのは数年後や数十年後。「先生がちゃんとワクチン打ってくれてたお陰で、ウチの娘は無事、風疹にかからず出産できました!」「先生の薬きちんと飲んでたから、俺、脳梗塞にも心筋梗塞にもならず済んだよ!」「風邪に抗菌薬出さなかったから、耐性菌の感染症にならなかったよ!」なんて報告はまずありえない。心筋梗塞の患者を救ったら感謝されるだろうが、「タバコやめろ、酒を控えろ、運動しろ、食べ過ぎるな、薬ちゃんと飲め」なんてばかり言ってる医者は嫌われる。お巡りさんが泥棒を捕まえて感謝されても、事故予防の為にスピード違反やシートベルト着用を取り締まったら嫌われるのと似ている気がする。

どうやったらやりがいを感ぜられるのか。「この先生は本当にいつもいつも風邪に抗生剤だしてくれませんか!」と子供を受診させたお母さんに非難された時に、心の中でそっと「誉れであります」と呟いたら少しは楽になるのか。自己満足な気もする。

40歳を過ぎて少しは大人になったのか「感謝される仕事をしたい」と考えてこの仕事を選んだが「人に貢献したい」と考えたほうが長続きしそうだと考え直すようにしている。とはいえ、そんなできた人間ではないので、誰かに言いたくてこんな文章を書いてみました。